

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要円成!



親鸞様御眞影(ごしんねい)(本山:七百五十回大遠忌御正当法要:24.1.13)



発行所
岡谷市郷田一丁目6番3号
TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
発行
敬念寺門信徒会
編集
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや
彼(か)の人との
出会(であ)いの時間

小僧の目

一月十六日親鸞聖人大遠忌、御正当法要のご満座に御門主は、この法要を機縁として「新たな始まり」を期するご消息を發布されました▼敬念寺においても、平成十九年より長期にわたってお待ち受けの機運を盛り上げ法要・行事をはじめ数々の記念事業を皆様のお力によって完遂(かんずい)させていただいた節目の年であります▼人間や社会のあり方が激しく移り変わる世の中にあつて、この機会にお寺のあり方や機能を見直し、変えていく必要があります▼お寺の役割は一に浄土真宗・お念仏の教えの教化伝道を柱に法要・儀式の執行、施設その他の財産管理など寺則に沿った活動は勿論のこと、時代の要請や人々に寄り添う働きをしているか否か、総点検と反省が必要です▼そのためにも、それに携わる若い世代の人材発掘、育成が急務な課題です▼一方、私たちの生活の中でも床の間のない(お仏壇のない)家が増える中で家庭での礼拝や、お寺でのお朝事や日曜礼拝などの見直しも必要です▼あたり前の事のようにですが、まず大人が率先して普段の生活の中で合掌の姿を孫子に見せていく「写し」の行動が大切です▼また、近年、報恩感謝の気持ちや残された者の絆を深め合う法事も七回忌位からガタンと減る傾向にあります▼年回忌法要にとらわれず、大切な方の祥月命日(一年に一度訪れる亡き人の命日)位は朝七時の「おまいり」をご一緒にしたいものです▼この地にお念仏の教えを広めるため、新しい寺院設立に心血をそそいだ先人の情熱を受け継ぎ、新生「敬念寺」の歩みを進めてまいりましょう。

釋 玄真

ご寺院行事

- 3月20日(火) 春の彼岸法要 前 10:00
講師 清水 正宣先生(和歌山県)
*お彼岸の関係で夜の法話会はお休みです。
- 7月14日(土) 第29回ファミリー参拝 後 6:00
- 8月1日(水) 第33回早朝連続参拝 前 5:30
~ 10日(金)

ご定例法話会

- 4月20日(金) 講師 杉谷淳志先生(富山県)
- 5月20日(日) 講師 丸山文雄先生(新潟県)
- 6月20日(水) 講師 高橋純明先生(新潟県)
- 7月20日(金) 講師 遠山信敬先生(福井県)

いずれも毎月20日 夜7:00からです

親鸞聖人七百五十回 大遠忌法要円成!

昨年四月から営まれた、本山の大遠忌法要が三月十六日に無事円成いたしました。敬念寺では、四月に代表者が団体参拝させていただきました。また、一月には役員による参拝をさせていただきました。

この参拝に参加した方から投稿をしていただきましたので、七百五十回大遠忌法要を振り返ってみたいと思います。

大遠忌のご勝縁に遇えて

岡谷市 滝川 育子
(会報組織委員会副委員長)

五十年という縁は、人の一生の上ではなかなか得られないチャンスとすることがあります。

この度の「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」にご縁をいただき、敬念寺においてもそのお待ち受け記念事業として、多くの方々から大変貴重な募財を頂き、「やさしいお寺づくり」として様々な改修(本堂耐震補強、バリアフリー化) 参拝ホール設置・エレベーター設置・本堂及び会館をすべて椅子席に改良等) をされました。待ち

望んだ、やさしいお寺に生まれ変わりました。

昨年四月から、本山の「大遠忌法要」が始まり、同月、敬念寺でも代表の方々四十六名により団体参拝をいたしました。

御影堂に響く、三千七百人の音楽法要を勤めさせていただき、そのご勝縁に遇えた喜びと感動を味わうことができました。

また、門徒推進員として、敬念寺の推進員のお仲間と本山でのボランティアに参加し、全国から集まる門徒の方々の笑顔に触れる幸せを感じる事ができました。

いよいよ本山も御満座を迎えられる直前の、一月十三日には役員の方々と、再び参拝する事ができました。

音楽法要は、春の参拝にも増して更なる感動を覚え、改めてこれからの生きて行く「道」が見えた思いでした。

「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」が円成したことを受け、御門主様から御消息が下されました。

「一人ひとりが抱える課題を大切にし、お念仏を喜び心豊かに生きることができると社会を目指しましょう」とお示し下さいました。

私たちも、次の御縁に向かつてお念仏と共に強く生きて行きたいものだと、思っています。

昨年十一月、秋の旅行の新しい企画として、「お世話人を中心とした親睦旅行」が行われました。

ご夫婦で参加された方に紀行文を投稿していただきました。

湖東三山の旅

岡谷市 小原 久代

晩秋の十一月二十三日、門信徒会お世話人を中心とする、湖東三山巡りの日帰り旅行が行われました。お世話人の方々は大勢おられますが、個々に活動されていて横のつながりが少ないため、親睦を深める意味で企画されました。

我が家では三代に亘り、お世話人を勤めさせていただいており、主人も最後の御奉仕だと言ってお寺に足を運ぶようになりましたので、今回の旅行には夫婦で参加させていただきました。

今回、四十二名の方が参加されましたが、小雨にしっかりと濡れた近江の紅葉が、やさしく私達を迎えてくれました。

湖東三山とは、琵琶湖の東に位置し、聖徳太子により創建されたという百濟寺を始め、金剛輪寺、西明寺の三古刹を称して云うわけですが、人里離れた山深い地に開



百濟寺にて (23.11.23)

山し、乱世の時代心の拠りどころとして、ひたすら仏に帰依し修行に励んだであろう僧侶達に思いをはせながら、無の仏像に紅く色を添える庭園の素晴らしい紅葉を見て廻りました。昼食は、大きなお椀形の器に盛られた精進料理でしたが、とても美味しく、山道の登り降り疲れを癒してくれ、アルコールも大いに進んだ楽しいひとときとなりました。

車中は、住職様、坊守様の心づくしのおつまみセットでビールをいただき、また、ピングゲームに一喜一憂し、親鸞聖人七百五十回大遠忌の年の締めくくりとして、門信徒・お世話人の絆を一層深めた楽しい紅葉の旅でした。

「報恩講」～それは親鸞聖人様への御恩報謝の法要～

平成23年11月行われた敬念寺報恩講は、親鸞聖人七百五十回大遠忌のご勝縁の年に当たることから、本山と同じく「音楽法要」により営まれました。

報恩講法要は、門信徒(会)も主体的に関わりお勤めする法要であり、親鸞聖人様への御恩報謝の喜びを門信徒が分かち合う大切な行事です。

大遠忌のご勝縁を契機にした、「新たな始まり」を歩み始めた敬念寺の門信徒として、今年の報恩講に向かって、その意味を深め味わってまいりましょう！

心に染み渡った報恩講法要

長野市 西村 擁子

今年の報恩講に、長野市から初めて参加させていた、頂きました。

晩秋の敬念寺は美しい紅葉と菊の薫りで迎えてくださいました。

仏具がお磨きされ、荘厳された本堂は門信徒の皆さんで一杯でした。厳かな空気の中法要が始まると、ご住職の凛としたお声が響き渡りました。何度も阿弥陀如来に礼拝する敬けんなお姿、静寂の中に流れる音楽、経験したことのない尊い時間でした。

慌ただしい毎日のことを忘れ、導かれるように吸い込まれ、手にしたプリントを見ながら、一生懸命正信念仏偈を称えていました。作法も分からない自分でしたが、皆さんに遅れまいと真剣でした。親鸞聖人様が教えを広めるため称えられた念仏和讃もお勤めし、音楽と共に心に染み渡りました。

格調高い報恩講法要をお勤めして、有難い大きな喜びとなり、感謝の一日となりました。

「人と仏」のご法話も、縁の大切さ、如来の声に耳をすます大切さ等お聞きし、今の自分を見つめ直す良い機縁となりました。

広い会館でのお齋では婦人部の皆さんによる、心のこもったお料

理がふるまわれましたが、敬念寺汁の美味しさは格別で私を優しく温かく包み、癒してくれました。

門信徒作品展では卓越した才能をお持ちの方が大勢いらっしゃることに驚きました。たくさんのお見事な作品に感動いたしました。

すばらしい報恩講を執り行ってくださいましたご住職始め役員、関係者の皆様のご労力に心より感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

幼き頃の「報恩講」

岡谷市 星野 吉晴

私は御同朋のご縁で「信徒」として、敬念寺さんにお参りさせていただきました。生まれるは島根県出雲市の日本海沿いの漁村で、村の八割方が浄土真宗という、親鸞様への思いの深い土地です。

ですから、子供の頃は日曜学校で法話を聞き、家庭では毎日家族で正信偈を拝読し、秋になると各家ごとに報恩講が催されました。ことに報恩講は、家へお寺様をお呼びし、親戚縁者が集まって盛大に行われたものです。終戦直後の何もない時代でも、この日だけは立派なお料理やお供物が用意さ

れていました。

子供の頃は、それが楽しみで、報恩講を待ち望んだものです。

今や齢七十、そうした仏縁に恵まれた環境に育ちながらも、いまだ悟りなどは程遠く、ただただ悪人の自覚と、それでもなお救ってくださるといふ阿弥陀さまへの報恩の念を新たにするために、今年も報恩講にお参りさせていただきます。大遠忌法要の今年は、「音楽法要」ということで特に感銘いたしました。

尊いおことばと厳かな音楽とともにご唱和して進むうち、最後の回向文になり、これがなんと、子供の頃日曜学校や報恩講でいつも歌っていた「恩徳讃」でした。

心を込めて歌い上げるうち、幼き頃の思いが甦ってきて、ついつい目頭が熱くなってきました。

皆さんご存知のことと思えますが、恩徳讃はいつからか、これぞ宗教歌といえるような優美な曲に衣替えしました。

歌うと心が洗われる心地がします。でも、古い懐かしい恩徳讃はどこへ行ったのだろうか、いつも思っていたのですが、こういう形で今も受け継がれていたことを改めて知り、大変感激しました。

また皆様とともに、恩徳讃を歌える日を楽しみにしています。



2011年度 敬念寺親睦旅行(近江路・湖東三山巡り/百濟寺)[2011.11.23]

トピックス!

一層進む優しい寺づくり!

引き続き、優しい寺づくりに取り組んでいます。今年度事業として実施したものを紹介します。

- ① 会館一階トイレを洋式便座に改良しました。(女子トイレは全て、男子トイレは一か所)
- ② 会館玄関に手摺及び座イス設置
- ③ 参拝ホール床滑り止めとして、通路にジュータンを設置



改良した会館1階女子トイレ

春の彼岸・行事案内

今年の春の彼岸の行事は下記のとおりです。ご家庭で、お寺でよい彼岸の一週間をお過ごし下さい。

- ・3月17日(土) 彼岸の入り
- ・3月20日(火) 春の彼岸法要 朝 10:00

(夜7時からの定例法話会はお休みです。)

講師 清水 正宣先生(和歌山県)
講題 「阿弥陀さまとの出会い」

※終了後お茶の接待があります。



参拝ホールジュータン



会館玄関座イスと手摺

門信徒会年次総会

—4月28日(土)午後5時半より開催—

総会は地区等世話人の代議員制です。地区世話人を通じてご意見をお寄せ下さい。

日時:平成24年4月28日(土)
午後5時30分開催

場所:敬念寺本堂・講堂

議 題

1. 平成23年度事業・会計報告
2. 平成24年度事業・予算案承認の件
3. 役員改選(補充)の件
4. その他

終了後、懇親会を開催します。(会費1,000円) お車はご遠慮ください。

編集後記

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が円成し、敬念寺が取り組んできた諸事業も、門信徒の皆様のご協力により見事に完遂されました。お寺では、大遠忌のご勝縁を契機に、お念仏のみ教えを一層広めるための「新たな歩み」を始めています。朝七時からお勤めしている日曜礼拝では、家族連れの姿も増えてきています。今年になってからのお朝事では、正信偈のお勤めの後に、「**拝読 浄土真宗のみ教え**」を皆さんで拝読させていただきました。のよるこび「親鸞聖人のことば」「折々のことば」からなる黒表紙の教本です。春彼岸の良い気候となってきましたので、多くの皆様とご一緒に、阿弥陀如来様の尊前で拝読したいものです。

(白田 記)